

# Oracle® Database

Companion CD クイック・インストール・ガイド

10g リリース 1 (10.1.0.3) for Linux x86-64

部品番号 : B15540-01

原典情報 : B14404-01 Oracle Database Companion CD Quick Installation Guide 10g Release 1 (10.1.0.3) for Linux x86-64

2004 年 11 月

---

このマニュアルでは、Oracle Database 10g Companion Products (Oracle HTTP Server および Oracle HTML DB) を Linux x86-64 システムにすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. Oracle HTML DB 用のデータベース情報の特定
3. root としてのシステムへのログイン
4. ハードウェア要件の確認
5. ソフトウェア要件の確認
6. 必須の UNIX グループおよびユーザーの作成
7. Oracle ベース・ディレクトリの作成
8. 製品ディスクのマウント
9. oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成
10. Oracle Database 10g Companion Products のインストール
11. インストール後の作業

**ORACLE®**

Copyright © 1996, 2004, Oracle.  
All rights reserved.

Oracle は、Oracle Corporation やその関連会社の登録商標です。その他、ソフトウェアもしくはドキュメントに表示されている商標および登録商標は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

# 1 このマニュアルの概要

---

---

**注意：** このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Database 10g Companion Products をインストールする方法を説明します。ご使用のシステムに Oracle ソフトウェアがすでに存在している場合は、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド for Linux x86-64』で、インストール手順の詳細を確認してください。

---

---

このマニュアルでは、新しい Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle Database 10g Companion Products をデフォルトの設定でインストールする方法を説明します。Oracle Database 10g Companion Products には、次のものが含まれます。

- **Oracle HTTP Server:** Apache HTTP Server をベースにした Web サーバー。
- **Oracle HTML DB:** プログラマでなくてもデータベース中心の Web アプリケーションを作成できるホストされた開発環境。デスクトップ・データベースの生産性に加え、Oracle データベースのセキュリティ、信頼性およびパフォーマンスも提供します。どのような IT 組織でも、Oracle 開発スキルのない部門用に Oracle HTML DB 環境をホストできます。

## このマニュアルで説明しないタスク

このマニュアルで、次のタスクの実行方法は説明しません。

- Oracle Database 10g が含まれている既存の Oracle ホームへの Oracle Database 10g 製品のインストール方法
- Oracle HTTP Server が含まれている既存の Oracle ホームへの Oracle HTML DB のインストール方法

## 追加インストール情報の入手先

このマニュアルで説明されていない情報を含めた Oracle Database 10g Companion CD 製品のインストール方法の詳細は、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド for Linux x86-64』を参照してください。

このマニュアルは、製品ディスクに含まれています。アクセスするには、Web ブラウザで、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリの companion ディレクトリ内にある welcome.htm ファイルを開き、次に「ドキュメント」タブを開きます。

# 2 Oracle HTML DB 用のデータベース情報の特定

Oracle HTML DB をインストールする前に、次のタスクを実行します。

## Oracle Database インストールの確認

Oracle HTML DB をインストールする前に、Oracle HTML DB で使用する Oracle データベースを特定します。このデータベースは、Oracle9i リリース 9.2.0.3 以上である必要があります。データベースは、Oracle HTML DB をインストールするシステムとは異なるシステムにあっても構いません。

## Oracle XML DB の確認

使用するデータベースに、Oracle XML DB がインストールされている必要があります。

インストール時に作成されたか、または Database Configuration Assistant (DBCA) によって作成された事前構成済データベースを使用する場合、Oracle XML DB はすでにインストールおよび構成されています。Oracle XML DB を既存のデータベースに手動で追加する方法は、『Oracle XML DB 開発者ガイド』を参照してください。

## データベース情報の確認

インストール時に、データベースに関する次の情報を指定する必要があります。

- データベース・システムのホスト名
- Oracle Net Listener のポート番号
- データベースのサービス名
- SYS ユーザーのパスワード

インストールを開始する前に、これらの情報を確認してください。

## 3 root としてのシステムへのログイン

Oracle ソフトウェアをインストールする前に、root ユーザーとしていくつかのタスクを実行する必要があります。root ユーザーとしてログインするには、次の手順の1つを実行します。

---

---

**注意：** ソフトウェアは、X Window ワークステーション、X 端末または X サーバー・ソフトウェアがインストールされている PC またはその他のシステムからインストールする必要があります。

---

---

- ソフトウェアを X Window System ワークステーションまたは X 端末からインストールする場合、次の手順を実行します。

1. X 端末 (xterm) など、ローカル・ターミナル・セッションを開始します。
2. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル X サーバーに表示できるように、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost +
```

3. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、ssh、rlogin または telnet コマンドを使用して、ソフトウェアのインストール先となるシステムに接続します。

```
$ telnet remote_host
```

4. root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

- X サーバー・ソフトウェアがインストールされた PC またはその他のシステムからソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。

---

---

**注意：** このタスクの実行方法の詳細は、必要に応じてご使用の X サーバーのマニュアルを参照してください。使用している X サーバー・ソフトウェアによっては、タスクの実行順序が異なる場合があります。

---

---

1. X サーバー・ソフトウェアを起動します。
2. X サーバー・ソフトウェアのセキュリティ設定を構成して、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル・システム上で表示できるようにします。

3. ソフトウェアをインストールするリモート・システムに接続し、そのシステムで X 端末 (xterm) などのターミナル・セッションを開始します。
4. リモート・システムに root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

## 4 ハードウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

要件	最小値
物理メモリー (RAM)	256MB (262144KB)
スワップ領域	512MB (524288KB) または RAM のサイズの 2 倍 RAM が 2GB 以上あるシステムでは、スワップ領域は RAM のサイズの 1 ~ 2 倍が必要です。
/tmp 内のディスク領域	400MB (409600KB)
ソフトウェア・ファイル用のディスク領域	Oracle HTTP Server のみインストールする場合は 400MB (409600KB)、Oracle HTTP Server および Oracle HTML DB をインストールする場合は 700MB (716800KB)

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理的な RAM のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# grep MemTotal /proc/meminfo
```

システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが 256MB 未満の場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。

2. 構成されているスワップ領域のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# grep SwapTotal /proc/meminfo
```

追加のスワップ領域の構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. /tmp ディレクトリ内の空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -h /tmp
```

/tmp ディレクトリで使用できるディスク領域が 400MB 未満の場合は、次の手順の 1 つを実行します。

- /tmp ディレクトリから不要なファイルを削除して、必要なディスク領域を確保します。
- oracle ユーザーの環境を設定する場合 (後述します) は、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
- /tmp ディレクトリを含むファイル・システムを拡張します。ファイル・システムの拡張方法は、必要に応じてシステム管理者に確認してください。

4. システムで使用できる空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -h
このコマンドにより、マウントされている全ファイル・システムのディスク領域の使用量が表示されます。インストールを実行するには、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。
```

## 5 ソフトウェア要件の確認

システムは、ご使用の Linux のディストリビューションとバージョンに応じて、少なくとも次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

### Red Hat Enterprise Linux 3 (Update 2)

- 次のパッケージ（またはそれ以上のバージョン）がインストールされていること。

```
gcc-3.2.3-34
glibc-2.3.2-95.20
glibc-devel-2.3.2-95.20
glibc-devel-2.3.2-95.20 (32 bit)
make-3.79.1
openmotif21-2.1.30-8
setarch-1.3-1
compat-db-4.0.14-5
compat-gcc-7.3-2.96.128
compat-gcc-c++-7.3-2.96.128
compat-libstdc++-7.3-2.96.128
compat-libstdc++-devel-7.3-2.96.128
gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1 (32 bit)
libaio-0.3.96-3
libaio-devel-0.3.96-3
```

- カーネル・バージョン 2.4.21-15.EL 以上がインストールされていること。

### SuSE Linux Enterprise Server 8

- Service Pack 3 (SP3) 以上（カーネル・バージョン 2.4.21-185-smp）
- 次のパッケージ（またはそれ以上のバージョン）もインストールされていること。

```
gcc-3.3-43
gcc-c++-3.3-43
glibc-2.2.5-213
glibc-32bit-8.1-9
glibc-devel-32bit-8.1-9
make-3.79.1
openmotif-2.2.2-125
libaio-0.3.96-3
libaio-devel-0.3.96-3
```

### SuSE Linux Enterprise Server 9

- カーネル・バージョン 2.6.5-7.97 以上がインストールされていること。
- 次のパッケージ（またはそれ以上のバージョン）もインストールされていること。

```
gcc-3.3.3-43
gcc-c++-3.3.3-43
glibc-2.3.3-98
libaio-0.3.98-18
libaio-devel-0.3.98-18
make-3.80
openmotif-libs-2.2.2-519.1
```

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. インストールされている Linux のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /proc/version
```

---

---

**注意：** 現在の保証およびサポート対象となるのは、ここにリストしたディストリビューションとバージョンのみです。

---

---

2. 必要なパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ rpm -q package_name
```

必要なパッケージがインストールされていない場合や、必須バージョンより前のバージョンの場合は、オペレーティング・システムの配布メディアからパッケージをインストールするか、または必須のパッケージ・バージョンを Linux ベンダーの Web サイトからダウンロードしてください。

3. Red Hat Enterprise Linux 3 システムの場合のみ、次のコマンドを入力してカーネル 2.4.21-15.EL 以上がインストールされているか調べてください。

```
# uname -r
```

カーネルが 2.4.21-15.EL より前のバージョンの場合は、最新のカーネル・アップデートをインストールしてください。カーネル・アップデートは、Red Hat Network から入手できます。

4. SuSE Linux Enterprise Server 8 システムの場合のみ、次のコマンドを入力して Service Pack 3 がインストールされているか調べてください。

```
# uname -r  
2.4.21-185-smp
```

このコマンドを実行すると、カーネル・バージョン (2.4.21-185) およびタイプ (smp) が表示されます。カーネルが 2.4.21-185 より前のバージョンの場合は、SuSE に連絡して Service Pack 3 の入手とインストールの方法を問い合わせてください。

5. SuSE Linux Enterprise Server 9 システムの場合のみ、次のコマンドを入力して必要なカーネルがインストールされているか調べてください。

```
# uname -r  
2.6.5-7.97
```

このコマンドを実行すると、カーネル・バージョン (2.6.5-7.97) が表示されます。カーネルが 2.6.5-7.97 より前のバージョンの場合は、SuSE に連絡してカーネル・アップデートの入手とインストールの方法を問い合わせてください。

## 6 必須の UNIX グループおよびユーザーの作成

システムに次のローカル UNIX グループおよびユーザーが存在している必要があります。

- oinstall グループ (Oracle インベントリ・グループ)
- oracle ユーザー (Oracle ソフトウェアの所有者)

oinstall グループおよび oracle ユーザーは、システムにすでに存在している場合があります。これらのグループおよびユーザーがすでに存在しているかどうかを調べる場合、または必要に応じて作成する場合は、次の手順に従います。

1. oinstall グループが存在しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# grep '^oinstall:' /etc/group
```

このコマンドの出力結果が指定したグループ名を示している場合、そのグループはすでに存在しています。

2. 必要に応じて次のコマンドを入力し、oinstall グループを作成します。

```
# /usr/sbin/groupadd oinstall
```

3. oracle ユーザーが存在し、正しいグループに属しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# id oracle
```

oracle ユーザーが存在する場合は、このコマンドにより、ユーザーが属しているグループに関する情報が表示されます。出力結果は次のようになります。oinstall がプライマリ・グループであることが示されています。

```
uid=502(oracle) gid=502(oinstall) groups=502(oinstall),503(dba)
```

4. 必要に応じて、次の処理の 1 つを実行します。

- oracle ユーザーが存在していてもプライマリ・グループが oinstall ではない場合は、次のようなコマンドを入力します。-g オプションは oinstall をプライマリ・グループに指定し、-G オプションは oracle ユーザーが所属している既存のグループを指定します。

```
# /usr/sbin/usermod -g oinstall -G dba oracle
```

- oracle ユーザーが存在しない場合は、次のコマンドを入力して作成します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall -G dba oracle
```

このコマンドにより oracle ユーザーが作成され、次のように指定されます。

- プライマリ・グループとして oinstall
- オプションのセカンダリ・グループとして dba

5. 次のコマンドを入力して、oracle ユーザーのパスワードを設定します。

```
# passwd oracle
```

## 7 Oracle ベース・ディレクトリの作成

次のような名前で作成した Oracle ベース・ディレクトリを作成し、そのディレクトリに、適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定します。

```
/u01/app/oracle
```

Oracle ベース・ディレクトリに、Oracle HTTP Server のみをインストールする場合は 400MB (409600KB) の空きディスク領域、Oracle HTTP Server および Oracle HTML DB をインストールする場合は 700MB (716800KB) の空きディスク領域が必要です。

このディレクトリを作成する位置を決定するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、マウントされているすべてのファイル・システムに関する情報を表示します。

```
# df -h
```

このコマンドにより、システムにマウントされているすべてのファイル・システムに関する情報が表示されます。次のような情報があります。

- 物理デバイス名
  - ディスク領域の合計量、使用量、および使用可能な量
  - そのファイル・システムのマウント・ポイント
2. 表示されている中から、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。
  3. 特定したファイル・システムのマウント・ポイント・ディレクトリの名前を書き留めます。

次の例では、/u01 がソフトウェアに使用されているマウント・ポイント・ディレクトリです。ご使用のシステム上のファイル・システムへの適切なマウント・ポイント・ディレクトリを指定する必要があります。

必要なディレクトリを作成してそのディレクトリに適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定するには、次の手順を実行します。

---

---

**注意：** 次の手順では、/u01 を、前述の手順 3 で特定した適切なマウント・ポイント・ディレクトリに置換してください。

---

---

1. 次のコマンドを入力して、Oracle ベース・ディレクトリ用に特定したマウント・ポイント・ディレクトリにサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /u01/app/oracle
```

2. 作成したディレクトリの所有者およびグループを、oracle ユーザーと oinstall グループに変更します。

```
# chown -R oracle:oinstall /u01/app/oracle
```

3. 作成したディレクトリのアクセス権を 775 に変更します。

```
# chmod -R 775 /u01/app/oracle
```

## 8 製品ディスクのマウント

Oracle Database 10g ソフトウェアは、CD-ROM および DVD-ROM の両方の形式で提供されています。これらのディスクは、Rockridge 拡張形式に対応した ISO 9660 形式です。

ほとんどの Linux システムでは、製品ディスクをドライブに挿入すると自動的にマウントされます。ディスクが正しくマウントされたことを確認するには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じて、次のようなコマンドを入力して現在マウントされているディスクを取り出し、ドライブから取り除きます。

- Red Hat:

```
# eject /mnt/cdrom
```

- SuSE:

```
# eject /media/cdrom
```

この例では、ご使用のディストリビューションに応じて、`/mnt/cdrom` または `/media/cdrom` が CD-ROM ドライブのマウント・ポイント・ディレクトリになります。

2. ディスクを CD-ROM または DVD-ROM ドライブに挿入します。
3. ディスクが自動的にマウントされたことを確認するには、次のようなコマンドを入力します。

- Red Hat:

```
$ ls /mnt/cdrom
```

- SuSE:

```
$ ls /media/cdrom
```

4. このコマンドによってディスクの内容が表示されない場合、ご使用のディストリビューションに応じて次のようなコマンドを入力します。

- Red Hat:

```
# mount /mnt/cdrom
```

- SuSE:

```
# mount /media/cdrom
```

## 9 oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成

インストーラは、oracle アカウントから実行します。ただし、インストーラを起動する前に、oracle ユーザーの環境を構成する必要があります。環境を構成するには、次の設定が必要です。

- シェル起動ファイルで、デフォルトのファイル・モード作成マスク (umask) を 022 に設定します。
- DISPLAY および ORACLE\_BASE 環境変数を設定します。

oracle ユーザーの環境を設定するには、次の手順を実行します。

1. 別のターミナル・セッションを開始します。

2. X Window アプリケーションがこのシステムで表示できることを確認するために、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost +
```

3. 次の手順の 1 つを実行します。

- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されていない場合は、そのシステムに oracle ユーザーとしてログインします。
- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されている場合は、ユーザーを oracle に切り替えます。

```
$ su - oracle
```

4. oracle ユーザーのデフォルトのシェルを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ echo $SHELL
```

5. oracle ユーザーのシェル起動ファイルをテキスト・エディタで開きます。

- Red Hat の Bash シェル (bash) :

```
$ vi .bash_profile
```

- Bourne シェル (sh)、SuSE の Bash シェル、または Korn シェル (ksh) :

```
$ vi .profile
```

- C シェル (csh または tcsh) :

```
% vi .login
```

6. シェル起動ファイルで次の行を入力または編集して、デフォルトのファイル・モード作成マスクに値 022 を指定します。

```
umask 022
```

7. ファイルを保存して、エディタを終了します。

8. シェルの起動スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

- Red Hat の Bash シェル:

```
$ . ~/.bash_profile
```

- Bourne シェル、SuSE の Bash シェル、または Korn シェル:

```
$ . ~/.profile
```

- C シェル:

```
% source ~/.login
```

9. ハードウェア要件を確認したときに /tmp ディレクトリの空きディスク領域が不十分と判断した場合は、次のコマンドを入力して、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。空きディスク領域が十分にあるファイル・システムのディレクトリを指定します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ TEMP=/directory
$ TMPDIR=/directory
$ export TEMP TMPDIR
```

■ C シェル:

```
% setenv TEMP /directory
% setenv TMPDIR /directory
```

10. ソフトウェアのインストール先がローカル・システムではない場合は、ローカル・システムに表示するために、次のコマンドを入力して、X アプリケーションに指示します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ DISPLAY=local_host:0.0 ; export DISPLAY
```

■ C シェル:

```
% setenv DISPLAY local_host:0.0
```

この例で `local_host` は、インストーラの表示に使用するシステム（ワークステーションまたは PC）のホスト名または IP アドレスです。

11. 次のようなコマンドを入力して、ORACLE\_BASE 環境変数を設定します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ ORACLE_BASE=/u01/app/oracle
$ export ORACLE_BASE
```

■ C シェル:

```
% setenv ORACLE_BASE /u01/app/oracle
```

これらの例で `/u01/app/oracle` は、事前に作成した Oracle ベース・ディレクトリです。

12. ORACLE\_HOME および TNS\_ADMIN 環境変数が設定されていないことを確認するために、次のコマンドを入力します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ unset ORACLE_HOME
$ unset TNS_ADMIN
```

■ C シェル:

```
% unsetenv ORACLE_HOME
% unsetenv TNS_ADMIN
```

13. 環境が正しく設定されたことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ umask
$ env | more
```

`umask` コマンドにより値 `022` が表示されていること、およびこの項で設定した環境変数に適切な値が設定されていることを確認します。

## 10 Oracle Database 10g Companion Products のインストール

oracle ユーザーの環境を構成した後、次のようにしてインストーラを起動し、Oracle ソフトウェアをインストールします。

---

---

**注意：** 次の例は、CD-ROM の runInstaller スクリプトへのパスを示しています。ソフトウェアを DVD-ROM からインストールする場合、次のようなコマンドを使用します。

```
$ /mount_point/companion/runInstaller
```

---

---

1. インストーラを起動するには、次のコマンドを入力します。

■ Red Hat:

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /tmp
# /mnt/cdrom/runInstaller
```

■ SuSE:

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /media/cdrom
# cd /tmp
# /media/cdrom/runInstaller
```

インストーラが表示されない場合、『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド for Linux x86-64』で、X の表示のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

2. 次のガイドラインを使用して、インストールを完了します。

■ 次の表に、インストーラの各画面で推奨するアクションを説明します。

---

---

**注意：** 前述のタスクを完了している場合、ほとんどの画面でデフォルトを選択してインストールを完了できます。

---

---

- より詳細な情報が必要な場合、またはデフォルト以外のオプションを選択する場合、「ヘルプ」をクリックすると追加情報が表示されます。
- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合、『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド for Linux x86-64』のトラブルシューティングの説明を参照してください。

画面	推奨するアクション
ようこそ	「次へ」をクリックします。
インベントリ・ディレクトリおよび接続情報の指定	<p><b>注意：</b> この画面は、システム上に初めて Oracle 製品をインストールする場合にのみ表示されます。</p> <p>次の情報を指定して、「次へ」をクリックします。</p> <p><b>「インベントリおよびディレクトリのフルパスを入力してください」</b></p> <p>パスが次のようになっていることを確認します。oracle_base は、ORACLE_BASE 環境変数に指定した値です。</p> <pre>oracle_base/oraInventory</pre> <p><b>「オペレーティング・システム・グループ名の指定」</b></p> <p>指定されているグループが Oracle インベントリ・グループであることを確認します。</p> <pre>oinstall</pre>

画面	推奨するアクション
oraInstRoot.sh の実行	このプロンプトが表示された場合、別の端末ウィンドウで、次のスクリプトを root ユーザーとして実行します。  oracle_base/oraInventory/oraInstRoot.sh
ファイルの場所の指定	「インストール先」セクションで、新しい Oracle ホーム・ディレクトリ用に次のような値を指定し、「次へ」をクリックします。  「名前」  OraDb10g_Home1  「パス」  oracle_base/product/10.1.0/companion_1
インストールする製品の選択	「Oracle Database 10g Companion Products」を選択し、「次へ」をクリックします。
使用可能な製品コンポーネント	Oracle HTTP Server をインストールするには「Apache Standalone」を選択し、オプションで「HTML DB」を選択して、「次へ」をクリックします。
HTML DB 構成情報の入力	次の情報を指定して、「次へ」をクリックします。  「ホスト名」  データベースがインストールされているシステムのホスト名を指定します。  「ポート」  データベース・システム上の Oracle Net Listener の TCP/IP ポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 1521 です。  「データベース・サービス名」  Oracle HTML DB のデータベース・オブジェクトをインストールするデータベースの、データベース・サービス名を指定します。データベース・サービス名は、通常、データベースのグローバル・データベース名と同じです。たとえば、sales.us.oracle.com のようになります。  「SYS パスワード」  データベースの SYS ユーザーのパスワードを指定します。  「HTML DB パスワード」  HTML DB スキーマ（ユーザー）用に使用するパスワードを指定します。これらのスキーマは、インストール中にデータベースに作成されます。  インストール後にこのパスワードを使用して、ADMIN ユーザーとして Oracle HTML DB に接続できます。指定したパスワードは、HTMLDB_PUBLIC_USER スキーマでも使用されます。このスキーマは、mod_plsql がデータベースに接続する際に使用されます。  「HTML DB パスワードの確認」  パスワードを正しく指定したことを確認するために、再度入力します。  「表領域名」  Oracle HTML DB のデータベース・オブジェクトをロードする表領域の名前を指定するか、またはデフォルト（SYS_AUX）を受け入れます。
サマリー	表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。
インストール	「インストール」画面には、製品のインストール中、ステータス情報が表示されます。

画面	推奨するアクション
Configuration Assistant	「Configuration Assistant」画面には、ソフトウェアを構成する Configuration Assistant のステータス情報が表示されます。
セットアップ権限	<p>このプロンプトが表示された場合、別の端末ウィンドウで、次のスクリプトを root ユーザーとして実行します。</p> <pre>oracle_home/root.sh</pre> <p>この例で <code>oracle_home</code> は、ソフトウェアをインストールしたディレクトリです。正しいパスが画面に表示されます。</p> <p>スクリプトが完了した後、「OK」をクリックします。</p>
インストールの終了	<p>Oracle HTTP Server のホーム・ページの URL を書き留めます。この情報は、次のファイルにも記されています。</p> <pre>oracle_home/Apache/Apache/setupinfo.txt</pre> <p>インストーラを終了するには、「終了」をクリックし、次に「はい」をクリックします。</p>

フィールド	値
データベース・アクセス記述子 (DAD) 名	htmlldb
Oracle ユーザー名	HTMLDB_PUBLIC_USER
Oracle パスワード	HTML DB のインストール時に指定したパスワード
Oracle 接続文字列	<p>HTML DB オブジェクトがインストールされているデータベースの接続文字列。次のような形式です。</p> <pre>host:port:service_name</pre>
使用可能な接続プーリング	いいえ
デフォルト (ホーム)・ページ	htmlldb
ドキュメント表	WWW_FLOW_FILE_OBJECTS\$
ドキュメント・アクセス・パス	docs
ドキュメント・アクセス手順	WWW_FLOW_FILE_MANAGER.PROCESS_DOWNLOAD

## 11 インストール後の作業

Oracle HTTP Server および Oracle HTML DB のインストールが正常に完了した後、次の作業を実行します。

- インストールの最後に表示された URL を使用して、Web ブラウザで Oracle HTTP Server のホーム・ページにアクセスします。デフォルトの URL は、次のようになります。

`http://host.domain:7777/`

- Web ブラウザで Oracle HTML DB の管理ページにアクセスします。

`http://host.domain:7777/pls/htmldb/htmldb_admin`

ユーザー名 ADMIN およびインストール時に指定したパスワードを使用して、Oracle HTML DB にログインします。

- オンライン・ヘルプおよび『Oracle HTML DB ユーザーズ・ガイド』を参照して、Oracle HTML DB の使用方法、Oracle HTML DB を使用したアプリケーションの開発方法、および Oracle HTML DB の管理方法を学びます。
- 『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド for Linux x86-64』の第 5 章で、インストール後の必須およびオプションのタスクを確認します。

